

発行 〒938-0862 富山県黒部市宇奈月町浦山497 白雪山 善巧寺 TEL (0765)65-0055 FAX (0765)65-0975 http://www.zengyou.net

故人を偲びお参りしましょう 永代祠堂会 七月一日〜二六日

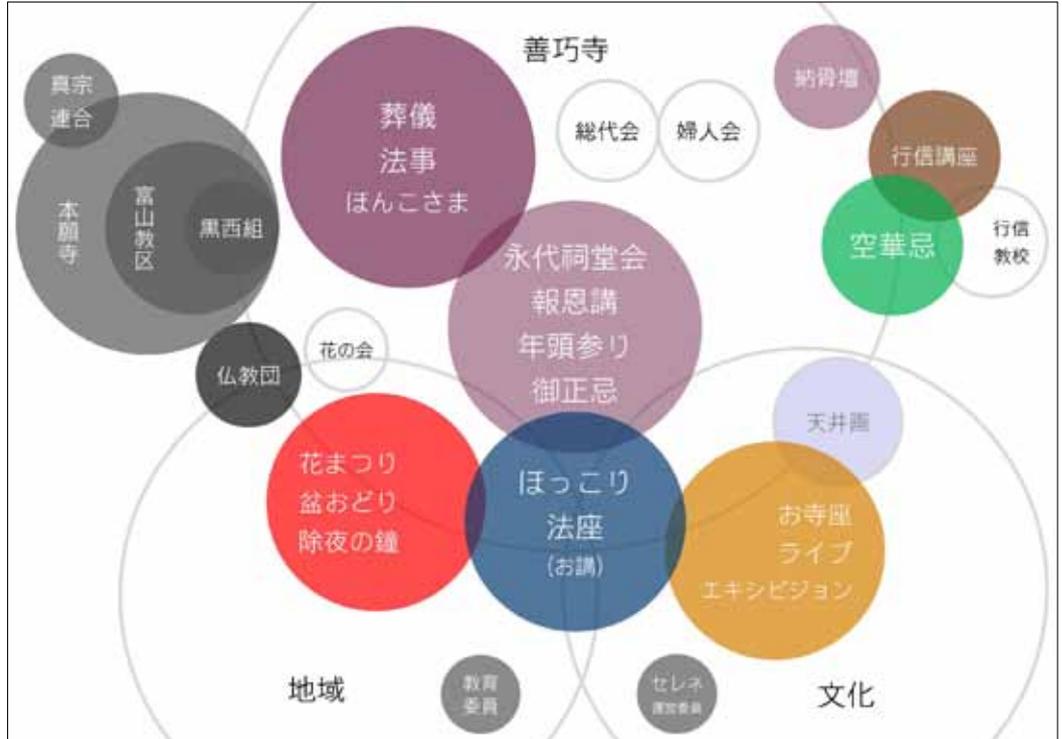
※昨年よりお講当番が休止しております。引き続き八月まで休止し、十月以降より各地区とご相談させていただきます。

- 一日 ほっこり法座
一五日 子供盆踊り(未定)
一六日 お盆参り
納骨壇法要

寺ごよみ 八月

- 一日 ほっこり法座
永代祠堂会
八日 永代祠堂会
一四日 永代祠堂会
二〇日 永代祠堂会
二六日 永代祠堂会

寺ごよみ 七月



善巧寺の全体イメージ図

善巧寺のイメージ図を書いてみました。ご覧のように、中心はお寺の要になる法要が位置し、それに並んでご門徒方の葬儀や法事、年に一度のほんこさま、そして、月2回のお講・ほっこり法座があります。また、善巧寺の枠をはみ出している活動が多くありますが、地域や有縁の方たちともご縁を結びお寺を支えていく大事な活動です。他に課外活動としては、黒西組や黒部市仏教団など、お寺さん方との繋がりが、住職個人としては、黒部市教育委員会や宇奈月セレネ美術館の運営委員として地域との繋がりが、本願寺や真宗教団連合の活動など仏教組織との繋がりがあります。

真ん中

「おつとめ」とは「つとめて」行うものなのでラクではありませんが、何よりも大事な行いです。ここが崩れると、お寺全体が不安定になり存在意義を失ってしまいます。みなさまの祖父母、父母、夫や妻、我が子の命日をご縁に「永代祠堂会」がつとまります。ど真ん中の法要へ、どうぞつとめてお参りください。よう、お願い申し上げます。

雪山俊隆

花まつりマルシェ

四月一日

暴風警報が発令する中、二年ぶりの花まつりマルシェを開催しました。花摘みは前々日に中学生を引き連れて数人で行い、前日は午前中に花飾りで集まってもらい、午後には中高生で仕上げ当日を迎えました。初参式は四組の受式者をお祝いして、本堂の中で縁日が行われました。途中、見たこともない大きなヒョウが降ってきて、大きな歓声があがりました。いろいろ縮小しながらも、めでたく花まつりを開催することができました。



民藝と仏教
五月十五日〜三十日
民藝には浄土真宗の教えが背景にあることをテーマに、展示会ならびに大福寺の太田浩史住職と林口砂里さんによる対談企画を行いました。



ほつこり法座

月二回の定例行事「お講」は、法話を聞くことに重点を置いた「ほつこり法座」にリニューアルして四年目に入りました。

昨年の四月から密集を避けるためお講の食事当番はストップしたままです。年に一度のご縁が途絶えたままとなり不安がつつりますが、はやく復帰できるようお願いいたします。



4/16 講師：飛鳥寛静先生



4/1 講師：瓜生崇先生



6/1 講師：竹中了祥先生



5/1 講師：雲林重正先生



お寺の畑の半分は「アグリとりの原」さんに管理してもらっています。



4/10 黒西組仏教婦人会



6/11 生きがいマップワークショップ（黒西組研修会）



4/6 春の清掃奉仕

寺
ごよみ

九月

- 八日 音沢報恩講
- 九日 音沢報恩講
- 一〇日 音沢報恩講
- 一四日 音沢報恩講
- 一六日 音沢報恩講
- 一七日 音沢報恩講
- 二〇日 音沢報恩講
- 二一日 音沢報恩講
- 二三日 音沢報恩講
- 二四日 音沢報恩講
- 二七日 栗虫報恩講
- 二八日 栗虫報恩講
- 二九日 栗虫報恩講

ほんこさま

年会費は一万二千円
をお願いいたします。

赤いろうそくを灯し、門徒式章をお持ちの方は着用してお参りしましょう。



永代祠堂会

7月1日(木) 午後一時半

対象命日：1日～7日

8日(木) 午後一時半

対象命日：8日～13日

14日(水) 午後一時半

対象命日：14日～19日

20日(火) 午後一時半

対象命日：20日～25日

26日(月) 午後一時半

対象命日：26日～31日

※法話は3ヶ寺が担当します。
※法要の前後にバザーがあります。



ほつこり法座

蓮に訪ねる仏様の教え

七月一日午前十一時

講師：福田慶隆師

なぜ仏教を聞くのか？

八月一日午前十一時

講師：篠島善敏師

いじむおぼや

八月十五日

コロナの状況を踏まえながら開催の有無を決定します。

お盆参り 納骨壇法要

八月十六日午前十時

お盆参りと合わせて、納骨壇の物故者追悼法要を行います。



合掌

コロナ禍に入り一年が過ぎました。初めの頃は不慣れだったマスク着用も当たり前になり、人と交流する場も激減しました。生活に大きな支障はないものの、じわじわと人間関係を変えていっているのかもしれない。

※ ※ ※

先日、僧侶の研修会で生きがいワークショップを受けました。「生きがい」というのは、仕事や趣味というよりも、もっと身近な日常にあつて、損得を超えた中にあると思いました。

※ ※ ※

一人旅を好む若者は「何もしない」ことを求めて旅に向かい、何十年仕事に明け暮れ家族を支えた人も、停年後に家でノンビリ出来ないのはなぜでしょうか。

